

バンディオンセ神戸FC ジュニアユース 3年間の取り組み

『 勝ちより、価値を 』

中学年代からのサッカーは、「フィールドサイズ、ゴールサイズ、ボールサイズ、人数」が世界の舞台と全く同じ基準になります。そして新しいチームメイトとの出会いを通じて、様々なことをお互いに影響し合うこととなります。これから起こるたくさんの「体験を成長に」していくため、「闘争心」「武器」「支え合う」と3つのキーワードを基に育成を進めていきます。

日々のトレーニングや試合での育成はもちろんですが、長期休暇を利用して積極的に合宿も行います。合宿では、普段の生活環境が違う者同士が、同じ時間と場所を共有し過ごすこととなります。合宿の特性を利用しサッカーの強化だけでなく、生活態度の見直しと指導も行います。

そして中学3年間と区切らず、常に未来を見据え高校年代で活躍できるための育成を行います。

◎ 闘争心

サッカーには2つの“たたかい”があります。

一つ目の“戦い”は、相手との戦いです。戦いは、他人との違いと共通点に気づかせてくれる場だと考えています。特に違いに気づくことで新たな視点を獲得し、隠れていた才能を引き出します。相手との戦いを通して自分の可能性を広げていきます。

もう一つの“闘い”は、自分との闘いです。自分の弱さと向き合うには勇気が必要です。自分の中にある勇気に気づき、弱さに打ち克つ心を育みます。

以上のことから、試合における勝敗は優劣を決めるためだけのものではないと考えています。

◎ 武器

「自分の心の支えとなるもの」が武器であると考えます。サッカーは人の良い部分ばかりを引き出すとは限りませんが、弱い部分を引き出すこともあります。自分の武器を見つけようとするため、苦しい時間であっても「子どもがかわいそう」といった理由で手を差し伸べることはしません。子どもの苦しみを一緒に共有し、時間がかかっても自力で立ち上がるまで見守り抜きます。そして自身を見つめる時間を大切に「自分の心の支えとなるもの」を見つけてもらい、苦しい場面でも「一歩踏み出せる」たくましさ、「笑顔で冒険する」強さを育みたいと思います。

◎ 支え合う

敵・味方問わずお互いに自分を磨きあい、磨いた力を味方と活かしあい、支え合うことの重要性を学んでもらいます。また眼に映る出来事だけに感謝するにとどまらず、今「眼には映らない思い」に支えられていると感じられる「心の深さ」まで育むことを目標としています。

自分を知り、人を知り、過信になりすぎず、不信になりすぎず、正しい自信を身につけてもらい、「行動する人を育成する」ことを目指します。

『ボールは絶対譲らない』

～ 球際 → 球極 → 魂極へ ～

サッカーの本質である「ミスの連続」を乗り越えていくためには「球際の見極め」が重要になります。「球際の上手さ」と「正確性」を高めながら、ボールを持たない時の勝負「ポジショニング」の指導へと発展させていきます。そして勝つためには戦術の目的である「敵より早くなりフリーになる(フリーにさせない)」ことが必要です。勝ち進めば必ず自分よりも身体が大きく速い選手と出会うことになります。身体能力のスピード差を埋める為に「技術と判断の早さ」で勝負できるようになるためのトレーニングを重要視しています。

★ 1年生 — 自分の力で

試合の勝敗やチーム戦術にとらわれず、徹底して球際のレベルアップに拘ります。「リカバリー」と「自分の間合い」を要点に、「3人の敵に囲まれてもボールを失わない」「1v1では突破する」ことを目的としたトレーニングを行います。同時にボールを失ったら全速力で奪い返すことも伝えます。またサッカーだけでなく、私生活も「自分のことは自分で」やる、何が起きても真っ先に「他人のせいにはしない」、人の意見に「耳を傾ける」心構えを身につけてもらいます。自分自身と向き合い、自分の行動を振り返り自ら素早く修復、解決することに取り組みます。

★ 2年生 — 仲間と共に

1年生で磨いてきた球際に更なる磨きをかけながら、より多彩にプレー出来ることを目指します。3年生で取り組むゲームメイクに向けて、グループで局面を解決していくことから学んでいきます。角度・距離・スピードを操って敵をコントロールすることに挑戦します。味方と同じイメージでプレーを成功させることは簡単ではありません。より複雑になっていく局面を解決していくために、仲間の考えを尊重し、お互いを活かしあっていく力を身につけてもらいます。

★ 3年生 — 全員で

チーム戦術を理解し、ボールポゼッションを軸にゲームメイクすることを学んでもらいます。「ボールを持たない時のポジショニング」を要点に、敵とのパワーバランスとチーム戦術を読む力、時間のマネジメント、リズムを感じとる力を身につけてもらいます。また3年生になって多くの公式戦を向かえる中、味方とは「競争と協力」を両立しなくてはなりません。試合に出ている選手は出していない選手の思いを背負いプレーする、出していない選手はチームのために出来ることを考える、という心構えを身につけてもらいます。選手は複雑な心境の中でプレーすることになり、非常に難しいトライです。楽になるために割り切る(諦める)ことなく「大きな成長」とするために、最後までやり抜いてもらいたいと思います。

★ そして高校年代へ

練習試合などを通して、高校年代と積極的に関わり進路のアドバイスも行います。中学3年間で磨き抜いた、「闘争心」「武器」「支え合う心」を持って高校年代へ歩んでもらいたいと思います。新しく出会う仲間、指導者、チーム戦術に素早く適応し、早くからの活躍を願います。

(各学年の取り組みは、「どこに重点を置いているか」ということであり、1年生の時にパスをしない、チームワークの指導をしない、ということではございません。)